

技術士包装物流会関西支部 福喜多俊夫

＜中国 EV 情報 80＞では 2017 年 4 月に入手した中国政府諸部門やマスコミからの新エネルギー車、EV 情報を記載します。

1. 中国 BYD、79%増益 前期エコカー補助金が寄与

中国自動車大手の比亞迪（BYD）が 29 日発表した 2016 年 12 月期決算は、純利益が前の期に比べ 79%増の 50 億 5215 万元（約 820 億円）だった。電気自動車（EV）などエコカー販売に対する政府の多額の補助金支援が追い風となった。一方、17 年は補助金の減額を受け、純利益の伸び率は 40%程度になるとの見通しを明らかにした。

16 年 12 月期の売上高は 29%増の 1002 億 770 万元で、13 年に比べて倍増した。エコカーを 1 台販売するごとに 100 万円前後の補助金が受給できる政策が寄与した。

29 日、香港市内で会見を開いた王伝福・董事長は「今年から（エコカーへの補助金が減り）市場の伸びが緩やかになった。ただ当社は今後もエコカー事業に一段と集中する」と意欲を示した。同社の 16 年の EV とプラグインハイブリッド車（PHV）を合わせたエコカー販売は中国市場で首位の 9 万 6 千台。17 年も「14 万～16 万台を目標にする」（王氏）とし、大幅増を見込む。（日経 3 月 29 日）

2. 中国テンセント、米テスラモーターズの第 5 位株主に

中国の IT 大手・騰訊（テンセント）がこのほど、17 億 7784 万ドルで、米テスラモーターズの株 5.0%を取得し、第 5 位株主になった。テンセントは、「今のところテスラモーターズとの具体的な提携計画はないが、将来的に両社の発展状況を見て、適切に考慮する」とコメントしている。株式は主にテンセント傘下の黄河投資が所有するという。資料によると、テスラモーターズの 1・4 位株主は、イーロン・マスク最高経営責任者（CEO）、投資会社フィデリティ、英独立系運用会社のベイリー・ギフォード、運用会社「T.ロウ・プライス」。

テスラモーターズの株式を買い進めた理由について、テンセントの広報部は取材に対して、「テスラモーターズは世界において、電気自動車、自動運転、シェアリング車両、情報のデジタル化、持続可能なエネルギー生産、拡張可能なエネルギー貯蔵などの新技術の先駆者。一方の当社はウィンウィンをずっと推進しており、内部のイノベーションや資本を利用した新興科学技術産業をサポートしている」と説明した。

テンセントは 2015 年 5 月に、EV（電気自動車）メーカー・蔚来汽車（NextEV）に出資しており、今回のテスラモーターズの株式取得も同分野への投資であることは間違いない。最近、テンセントは人工知能への投資を拡大させており、同社の馬化騰 CEO は、「将来、人工知能が業界内の核心競争力になるだろう」と語っている。（人民網 4 月 1 日）

3. BYD、欧州でEV拡大

中国自動車大手の比亞迪（BYD）は欧州で電気自動車（EV）事業を拡大する。すでに環境負荷の小さい車両として、欧州各地で公共交通機関のバス向けの受注が拡大しており、ハンガリーでは4日、新工場を稼働した。さらに欧州2番目となる新工場も仏に建設することを決定し、主力の中国以外の市場でも攻勢を強める。

ハンガリー工場の投資額は2千万ユーロ（約24億円）。EVバスを中心に年間400台を生産する。EVバスへの旺盛な需要を見込み、仏にもこのほど新工場の建設を決定。今後1千万ユーロを投じる計画だ。2018年前半をメドに稼働させ、EVバスを中心に年間200台の生産を予定する。中国でエコカー販売が首位のBYDは、既存のガソリンエンジン車から、EVバスなど収益性の高い事業へのシフトを強力に進めている。16年12月期の売上高に占めるエコカー事業の割合も34%に達した。（日経4月6日）

4. フォード、中国でEV参入

中国の自動車市場で次世代環境車の開発競争が加速する。米フォードモーターは6日、中国の電気自動車（EV）市場に本格参入する計画をあきらかにした。中国のEV市場では補助金を狙った現地メーカーが目立っていたが、外資メーカーにも新型車投入の動きが広がってきた。

フォードはEVとPHVを合わせたエコカーの中国での販売比率を2025年までに7割に引き上げると発表した。来年初めから、プラグインハイブリッド車（PHV）のセダンを中国で発売する。重慶長安汽車との合弁工場で生産する。また、今後5年以内にSUVのEV車を発売する。（日経4月8日）

5. 中国の水素燃料電池バス、5月に運行開始へ

北汽福田汽車有限公司が発表した情報によると、全長8メートルの水素燃料電池バス60台が雇用団体の通勤送迎バスとして5月から北京で運行開始されることになった。市民は燃料電池バスによるグリーンな外出という新モデルを体験できる。北京日報が伝えた。

バスの定員は60人で、28座席を設置。最高速度は時速69キロ。水素燃料電池バスは、発進と走行の際、騒音がほとんどない上、走行中の唯一の排出物は水蒸気だ。同社の宋術山副総裁によると、これらのバスは5月に北京で運行開始し、2017年に全国で500台以上まで増やす予定だ。（人民網4月7日）

6. 北京の大型EV充電スタンド稼働開始

北京市交通委員会が発表した情報によると、同市中心エリアで最大規模の電気自動車（EV）充電スタンドが稼働開始した。北京日報が伝えた。

この充電スタンドは前門外大柵欄の「北京坊」地下駐車場内にあり、100基の直流クイック充電ポールを設置。一般的なEVであれば、15-20分で充電を完了できる。この同市中

心エリアで最大の、サービス能力が最も高い EV 公共充電スタンドは、1 日平均で 5000 回以上の充電サービスを提供できる。(人民網 4 月 7 日)

7. 新エネ車の販売台数、3 月度は前年同月比 35.6%増

中国自動車工業協会が 11 日に発表したデータによると、中国の 3 月の自動車販売台数は増加率が低下し、前年同月より 4.8 ポイント低下の 4%増で 254 万 3000 台に達した。うち新エネ車は補助対象の拡大による影響を受け、販売台数の増加率が前年同月比 35.6%増と安定した。

データによると、3 月の自動車生産台数は前月比 20.6%増、前年同月比 3%増（増加率は前年同月比 7.2 ポイント低下）の 260 万 4000 台、販売台数は前月比 31.1%増、前年同月比 4%増（4.8 ポイント低下）の 254 万 3000 台。うち乗用車の生産台数は前年同月比 1.8%増（自動車全体の生産台数の増加率を 1.3 ポイント下回る）、販売台数は 1.7%増の 209 万 6000 台（2.3 ポイント下回る）。しかし商用車は高い成長率を示し、生産台数は前月比 33.3%増、前年同月比 10.2%増の 41 万 6000 台、販売台数は前月比 45.7%増、前年同月比 16.2%増の 44 万 7000 台。新エネ車の 3 月の生産台数は前年同月比 30.9%増の 3 万 3015 台、販売台数は 35.6%増の 3 万 1120 台。(中国網 4 月 12 日)

8. ホンダ、中国で EV 来年発売 現地専用モデル

ホンダは 19 日、中国で 2018 年に電気自動車 (EV) を発売する方針を明らかにした。ホンダが中国で EV を発売するのは初めて。中国専用モデルの EV を開発する。環境汚染が深刻な中国では、環境負荷が小さい EV 普及の機運が高まっている。ホンダは中国市場に合った EV を投入して、現地需要を開拓する。

中国本部長の水野泰秀執行役員は 19 日、中国・上海市内で日本経済新聞などの取材で「特急で EV を開発して投入したい」と述べた。EV だけでなく、プラグインハイブリッド車 (PHV) も 2 年前倒しして 18 年に投入するほか、燃料電池車 (FCV) の発売も検討しているという。(日経 4 月 20 日)

9. 上海モーターショー、水素自動車も登場

19 日に開幕した上海モーターショーでは、新エネルギー自動車大きな目玉となっている。従来型のバッテリー式電気自動車のほか、水素自動車も華々しく登場し、多くの人から注目を集めている。環境にやさしく、効率が高く、用途が幅広いのが水素エネルギーの特徴。水素エネルギーは、その特有のメリットを武器に、自動車メーカーがこぞって開発を進める存在となっている。北京日報が報じた。

中国の自動車メーカー・福田汽車の展示コーナーには、水素を燃料として走る水色の燃料電池バス (FC バス、長さ 8.5 メートル)・欧輝が展示され、多くの人が足を止めて見ている。(人民網 4 月 21 日)

10. タイ、エコカー集積へ始動

東南アジア最大の自動車産業を抱えるタイでプラグイン・ハイブリッド車（PHV）や電気自動車（EV）など新しいエコカーの取り組みが始まった。ダイムラーとBMWのドイツ2社がPHVの組み立てを開始。マツダの現地法人もEVの市場調査に着手した。ハイブリッド車（HV）に続く新しいエコカーでは誘致が遅れてきたタイだが、産業集積による競争力維持に向け、相次ぎ振興策を打ち出している。（日経4月25日）

以上